

多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7

三上晴子 没後10周年

三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展の記録 ver.1

2025年12月

本資料は、2025年6月23日（月）～7月20日（日）に、多摩美術大学八王子キャンパスアートテーク2F アートアーカイヴセンターギャラリーにおいて、多摩美術大学アートアーカイヴセンターの第7回所蔵資料展として開催された、「多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7 三上晴子 没後10周年 三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の記録をまとめたものです。

今回作成したテキスト・内容は、ver.1と位置付けており、今後バージョンアップを予定しています。



「多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7 三上晴子 没後10周年 三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」会場の様子（撮影：多摩美術大学アートアーカイヴセンター。本資料内の展示会場の写真は、いずれも多摩美術大学アートアーカイヴセンター撮影）。

目次

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の概要.....	4
「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の背景.....	5
三上晴子（1961-2015年）	5
三上晴子アーカイヴ.....	6
三上晴子活動年表.....	6
「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の趣旨.....	9
「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の構成と出展資料.....	9
公開作業日における展示解説の記録（2025年7月10日）	12
「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」出展リスト	36
今後の展望	37
謝辞.....	38
「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」展示資料一覧	39
展示台1 展示資料一覧.....	40
展示台2 展示資料一覧.....	41
展示台3 展示資料一覧.....	43
展示台4 展示資料一覧.....	46
展示台5 展示資料一覧.....	47
展示台6 展示資料一覧.....	49
展示台7 展示資料一覧.....	51
展示台8 展示資料一覧.....	53
展示台9 展示資料一覧.....	55
展示台10 展示資料一覧.....	58
展示台11 展示資料一覧.....	59
展示台12 展示資料一覧.....	60
壁面 展示資料一覧.....	61
クレジット	63

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の概要

タイトル：

多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7

三上晴子 没後10周年 三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展

サイトURL：<https://aac.tamabi.ac.jp/2025/3906.html>

会 期：2025年6月23日（月）～7月20日（日）

休館日：日曜日 ※7月20日（日）は開館

会 場：アートアーカイヴセンターギャラリー（八王子キャンパス アートテーク2F）

時 間：10:00～17:00 ※7月19日（土）、20日（日）は16:00まで

入場料：無料

主 催：多摩美術大学アートアーカイヴセンター

監 修：三上晴子アーカイヴ研究（久保田晃弘・石山星亜良・堀口淳史）

「公開作業日」

AAC所蔵資料展7「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」に関連して、今後予定している三上晴子アーカイヴの「ガイドブック」作成に向けての資料の把握・整理作業の一部を公開する目的で実施した。また、来場者への活動年表とデータ入力作業についての紹介や、ギャラリーツアーも行った。

開催日：6月26日（木）、7月3日（木）、10日（木）

時 間：いずれも12:10～13:00

場 所：アートアーカイヴセンターギャラリー

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の背景

三上晴子（1961-2015年）

三上晴子（みかみ せいこ）は、1980年代からアーティストとして活動を開始し、インスタレーション、インタラクション、ネット・アートといった多様なメディア表現を自在に横断し、常に時代の境界と狭間を見据えながら国内外で先駆的な創作活動を展開してきた。

また、2000年からは多摩美術大学情報デザイン学科の教員に着任し、メディア・アートを中心とする制作教育に携わった。



三上晴子ポートレート（2012）

ポートレート、《Molecular Informatics》《gravicells》《欲望のコード》「《Eye-Tracking Informatics》のためのドローイング」の画像（p.23、27、30、33「公開作業日における展示解説の記録（2025年7月10日）」に掲載）は、いずれも三上自身が作成したプロフィールサイトに掲載されていたもので、キャプションの内容もそれらに準じている。

三上晴子アーカイヴ

「三上晴子アーカイヴ」は、2018年に設立された多摩美術大学アートアーカイヴセンター（以下、AAC）の収蔵資料のひとつである。

「三上晴子アーカイヴ」の資料は、三上晴子のアーティストとしての作品制作や展覧会に関するもの、教員としての大学の教育や実務に関するものから、日常生活に関わるものまで多岐に渡る。

これらの資料は、2003年の設立以来、三上の大規模なインタラクティブ・メディア・インスタレーション作品を共同制作してきた山口情報芸術センター〔YCAM〕やご遺族の協力を得てAACに集約した。また、生前関係の深かったP3 art and environmentから、三上の1980年代の主要作品のひとつである《Iron Plant》が寄贈されている。

三上晴子活動年表

多岐にわたる三上晴子の活動を調査し、アーティスト／大学教員として、いつ、どのような活動を行ったのか、さまざまな活動に関する情報を収集し、その情報を一覧できるように整理した活動年表のプロトタイプ「三上晴子活動年表」を制作した。2024年にAACのサイト上で公開し、その後も随時情報の更新が行われている。

「三上晴子活動年表」は、アーティスト、そして教育者としての三上の多岐にわたる活動を一覧可能なかたちで可視化することを目的としたものである。本年表は、『SEIKO MIKAMI：三上晴子 記録と記憶』（馬定延／渡邊朋也編著、NTT出版、2019）に掲載された略年譜、山口情報芸術センター〔YCAM〕、NTTインターコミュニケーション・センター〔ICC〕、および多摩美術大学情報デザイン学科に残された本人のプロフィールサイト、その他オンラインで公開されている三上に関連する情報を参照し、それらを統合・拡張するかたちで構築された。さらに、今回の展示に向けてAAC所蔵の未公開資料を調査・整理することで、新たな情報も多数加えられた。

本年表は、多摩美術大学のさまざまな資料を横断的に検索できる、研究ポータルの基盤となるデータベース「TAUArtDB」（多摩美術大学においていくつかの機関が所有する資料の情報を統合し、外部に公開するために構築された研究用データベース）上に構築されており、今後は、本データベースを三上晴子に関する広範な調査研究を支える持続的なプラットフォームとして活用していくとともに、さまざまな視点から情報を時系列的に再構成・検索

できる年表を、三上晴子アーカイヴのインターフェイスとして発展させていくことを目指している。

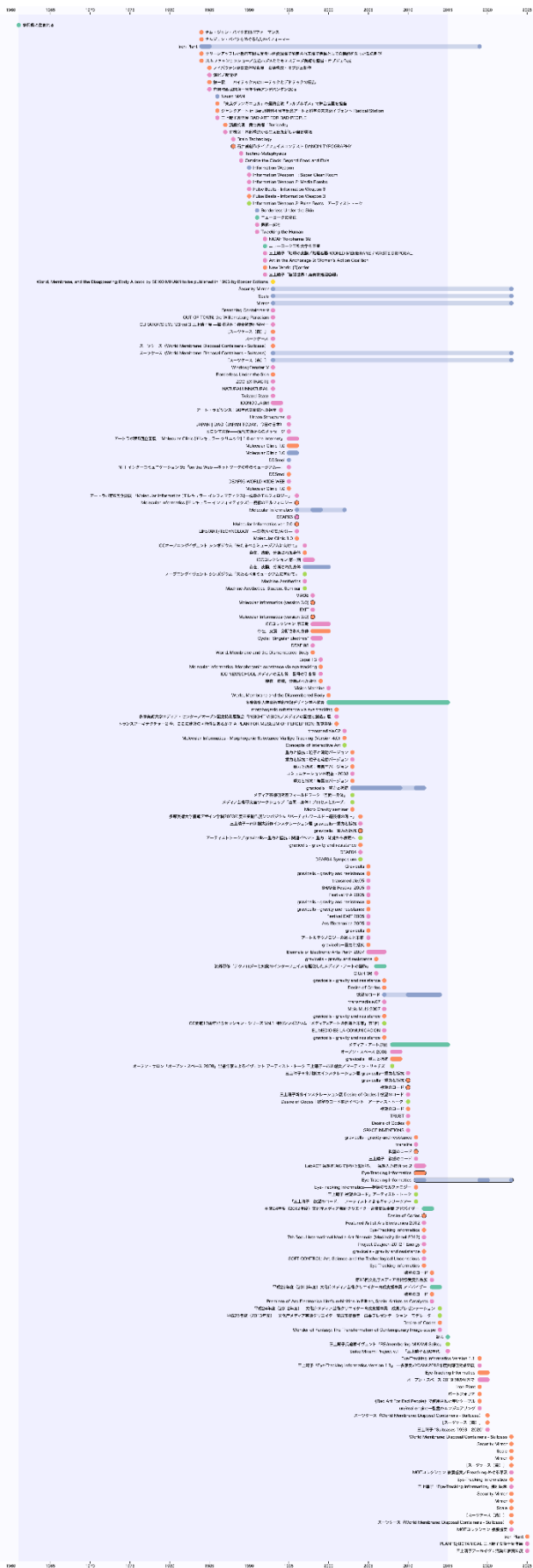
今回の資料展では、データベースから直接、会場で配布する出展資料リストを生成したり、出展資料リストに添えられた各資料のQRコードをスキャンすることで「三上晴子活動年表」の当該資料の詳細ページにアクセスできるようにするなど、展示資料とデータベースをリンクさせる新しい試みも行った。

活動年表は、TAUArtDB で管理されているカードデータ（各資料は、カードという仮想的な記述単位により表現され、絵画や彫刻作品などの物質的資料、展覧会やパフォーマンスなどの物体ではない出来事、複数の資料の概念的な集まりなどを、1枚のカードとして記述することができる）を JavaScriptライブラリの TAUEDA2Engine.js をもちいて、自動的かつ動的に生成している。カードの情報は、専用のアプリケーション（TAUArtArchiver）を用いて入力者の手元のコンピュータ上で入力する。

資料展開催後も「三上晴子活動年表」 (https://aac.tamabi.ac.jp/seiko_mikami_timelines.html) は随時更新されています。最新の情報はサイトにアクセスしてご覧ください。



QRコードを読み取ると「三上晴子活動年表」が表示されます。



「三上晴子活動年表」全体のスクリーンショット（資料展開催時点）。

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の趣旨

本展では、「三上晴子活動年表」の制作にあたって整理したフライヤー、ポスター、カタログなどの展覧会や作品に関連する資料の他、三上自身によって描かれたドローイング、映像資料の一部を展示した。

これらの資料を活動年表と照らし合わせて紹介することで、三上の表現がいかに革新的であり、同時に一貫した美意識に貫かれていたかを浮き彫りにし、三上の鋭敏な感覚や思想の変遷だけでなく、多摩美術大学におけるメディア・アート教育との深い関わりや、創作の背景にある時代的な文脈を読み取れるようにすることを意図した。

三上の没後10年となる2025年に開催される本展が、三上の諸活動の流れを新たな視点で掘り下げ、その創作の核心に触れる機会となることを目指した。

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の構成と出展資料

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」というタイトルに示される通り、「三上晴子活動年表」を基盤とし、展覧会のフライヤー、ポスター、カタログなどの展覧会や作品に関連する資料は基本的に時系列に配置することとした。会場に入って左手側から三上が活動を開始した1980年代の資料を展示し、反時計回りに鑑賞することで、三上の活動を時系列で辿ることができるようにした。展示台の上、もしくは付近の壁面には、展示台にある作品や展覧会に関連するポスターを展示した。なお、《gravicells》《欲望のコード》《Eye-Tracking Informatics》については、個別の資料を年代順に並べることもより作品ごとの単位で資料をまとめて展示することを優先した。

また本展では、三上晴子アーカイヴで所蔵している映像資料の一部を会場入口のモニターで上映した他、会場中央の机上に、大判印刷した活動年表（公開作業日にはPCでのデモを行った）、書籍や展覧会のカタログ、フライヤーの一部、これまでに発行・出版・掲載された三上晴子や三上晴子アーカイヴの調査などに関するテキストを配置し、来場者が自由に閲覧できるようにした。



会場入口からの様子。写真左側の展示台から反時計回りに、年代順で資料を展示している。



会場入口のモニターでの映像展示の様子。会場外側に掲示してあるのは、「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」のポスター（デザイン：中村陽道）。

今回展示した映像資料の概要：

- 滅ビノ新造型 [抜粋] (1985)
- 秋葉原散策 [抜粋] (1985)
- Information Weapon (1990)
- World, Membrane and the Dismembered Body (1997)
- World, Membrane and the Dismembered Body [DEAF 98] (1998)
- Gravity and Resistance, Seiko Mikami + Sota Ichikawa (2003)
- gravicells [設営], Seiko Mikami + Sota Ichikawa (2004)
- gravicells, Seiko Mikami + Sota Ichikawa (2004)
- gravicells [DEAF 04], Seiko Mikami + Sota Ichikawa (2004)

公開作業日における展示解説の記録（2025年7月10日）

以下のテキストの内容は、2025年7月10日（木）の公開作業日に行われた展示解説の記録を元に構成した。

（解説：久保田晃弘）

三上晴子さんが本格的に作家活動を始めたのは、1985年頃からです。1984年に、ギャラリー・ワタリ（後のワタリウム美術館）で開催されたナム・ジュン・パイクのイベントに参加した時の記録が掲載されている資料もありますが、今回展示している中で最も古い資料は、1985年の初個展《滅ビノ新造型》に関するものです。

当時、廃墟のような状態だった恵比寿のビール工場跡（現・恵比寿ガーデンプレイス）で、廃材を用いてさまざまなオブジェを制作し始めたことが、三上さんの作家活動の出発点といえると思います。今回は、その時期の記録映像の抜粋に加えて、展覧会告知ハガキ（p.40「展示台1 展示資料一覧」1-1）やポラロイド写真（p.40「展示台1 展示資料一覧」1-2、1-3）を展示し、初期の活動の具体像を紹介しています。

展示台1の中央に置いているのは手描きのドローイング（p.40-41「展示台1 展示資料一覧」1-5、1-6、1-7）で、ここに描かれている椅子やテーブルは、実際に廃材を用いて制作されたものです。展示会場に入ってすぐ左側の壁面に展示しているのは、「石井賞創作タイプフェイスコンテスト10回記念 DANCIN' TYPOGRAPHY」のポスター（p.61「壁面 展示資料一覧」壁面-1）で、このポスターに採用されている人型の造形物も、電線を用いて制作されました。展示台には当時のリーフレット（p.41「展示台1 展示資料一覧」1-9）も並べています。

三上さんは、活動初期からコンピュータのようなデジタルメディアや、情報社会そのものに強い関心を持っていました。《滅ビノ新造型》では、廃墟という物質的環境と情報社会という抽象的概念とを結びつけていて、そこに彼女の表現の原点があったのではないかと思います。



会場中央の机（写真手前）の左側にあるのは関連資料閲覧コーナー。右側は大判印刷した三上晴子活動年表。壁面に展示されているのは、「石井賞創作タイプフェイスコンテスト10回記念 DANCIN' TYPOGRAPHY ポスター」（壁面左側、p.61「壁面 展示資料一覧」壁面-1）と「トーヨコグループ 1991 カレンダー」（壁面右側、p.61「壁面 展示資料一覧」壁面-2）。



展示台1 展示した資料は、p.40-41「展示台1 展示資料一覧」を参照。

1980年代後半は、学際的な議論が活発化し、情報化が急速に進展した時期でした。1985年にはつくば科学博が開催されるなど、社会全体が新しい技術と情報環境に強い関心を寄せていました。その一方で、三上さんは大量消費社会や資本主義の「影」のようなものを鋭く感じ取っていたように感じます。

1990年には、廃棄された基板などをモチーフに、それらを武器のかたちへ収めた《Information Weapon》を制作し、インスタレーションとして発表しました。《Information Weapon》シリーズは計3回の個展として展開され、社会的にも「ユニークな活動を行う作家が現れた」という印象を強く与えた展覧会になりました（僕自身もその一人です）。

特に注目すべき点として、三上さんはインスタレーションの場所や構成に、非常に優れた嗅覚とセンスを持っていました。《Information Weapon》の一作目である《Information Weapon in Super Clean Room》は、一般の人が容易に立ち入れないクリーンルームを会場とし、防塵服を着用して作品を鑑賞するという形式で行われました。以前の展示が廃墟という極めてメッシーな環境であったことを踏まえると、廃墟のような雑然とした空間と、塵一つ許されないクリーンルームという対極的な場を選び分けた点に、三上さんの本質的で鋭い感覚がよく表れていると思います。

今回の資料展では、《Information Weapon in Super Clean Room》の写真が掲載されたトーヨコグループの企業カレンダー（p.61「壁面 展示資料一覧」壁面-2）も展示し、当時の展示環境と作品の背景をあわせて紹介しています。

三上さんが情報システムと並んで強い関心を寄せていたのが、バイオシステムでした。ウイルスや放射能といった「目に見えない危機」、あるいは動物実験の問題など、2010年代以降に世界的な関心が高まったテーマ、日本でいえば東日本大震災や福島第一原発事故、そして2020年のCOVID-19に象徴されるような問題に、三上さんは1980～90年代の時点ですでに着目し、作品化していました。資料を通して当時の展示を見ると、それらは「美しい」というよりも、身体感覚に直接訴えかけるような強いインパクトがあり、三上さんが早い段階から社会的・生態学的な問題にも敏感であったことがよく分かります。

こうした活動を続ける中で、三上さんは自身の関心をさらに深めるため、より広い環境で学びたいという思いを強めていったのだと思います。1990年代にはニューヨークへ渡り、ニューヨーク工科大学のコンピュータサイエンス専攻の修士課程に入学しました。

同時期、《Information Weapon》シリーズの三作目として制作された《Pulse Beats》は、脈拍をセンサーで検知して可視化・表現する作品で、三上さんにとってインタラクティブ性を持った最初の作品となりました。



展示台2 展示した資料は、p.41-43「展示台2 展示資料一覧」を参照。



展示台3 展示した資料は、p.43-46「展示台3 展示資料一覧」を参照。



展示台4 展示した資料は、p.46-47「展示台4 展示資料一覧」を参照。

AACの三上晴子アーカイヴには、作品の制作過程や展示に関する資料を中心に所蔵されています。例えば、《スーツケース (World Membrane: Disposal Containers - Suitcase)》と《スーツケース (黄)》の作品自体は、現在、東京都現代美術館に収蔵されていますが、AACでは今回展示されている『CURATOR'S EYE '93 vol.3 三上晴子展被膜世界：廃棄物処理容器』のカタログや告知用ハガキ (p.45「展示台3 展示資料一覧」3-14、3-15) などの作品や展覧会関連資料が収蔵されています。

今回の資料展では、それぞれの作品や展覧会に関連するフライヤー、カタログ、ドローイング、展覧会で制作されたポストカードやステッカーなどの資料を可能な限り多く展示し、三上さんの初期から中期にかけての活動の広がりを俯瞰することができる構成にしています。

1990年代に入ると、三上さんはインタラクティブ・メディア・インスタレーションを中心とした制作へと大きく舵を切っていきます。それ以前の作品にもインタラクションの萌芽は認められましたが、当時はまだ現代美術の文脈で理解されることが多く、メディア・アートという概念そのものが、生まれる前の時代でした。1990年代に入ると、ウェブや電子デバイスの発展とともに、日本とヨーロッパを中心に（ニュー・）メディア・アートという概念、そしてインタラクティブ・メディア・インスタレーションという作品形態が広く認知され始めました。三上さんは、この潮流の中核的な作家の一人として、精力的に作品制作を続けていきました。

キヤノン株式会社による文化支援プログラム「キヤノン・アトラボ」は、こうした新たな芸術運動を継続的に支援しました。三上さんがアトラボの依頼で最初に制作した作品が、1995年の《Molecular Clinic（モレキュラー クリニック）》でした。ニューヨークにはコンピューターウイルス研究所のような施設があったといわれていますが、三上さんはニューヨークでコンピュータサイエンスを学ぶ中で、情報とバイオが交差する領域——ナノテクノロジー、分子生物学、生物情報科学——に強い関心を抱くようになりました。そこから、90年代の活動の中心的モチーフとして「モレキュラー（分子）」が選ばれ、情報や知覚データのような「不可視の要素」を捉え直すためのメタファー、あるいは象徴としました。そして「あらゆる物体は、分子の連鎖を変えることで人工的に作り出すことができる」という独自の構想を抱くようになります。

《Molecular Clinic》は、こうした関心から生まれた、分子のような小さな粒子の集合を扱うインタラクティブ・ネット・アートの第一作目です。蜘蛛のかたちをしたモチーフが3Dの「ワールド・ワイド・ウェブ空間」に配置され、それが無数の粒子（モレキュラー）で構成されています。ブラウザを通じて多数のユーザーがアクセスすることができ、アクセスした人は蜘蛛の巣からモレキュラーを一粒取り出し、自身のコンピュータ環境で「育てる」ことができました。育成の過程では色・形・大きさ・数が変化し、成長したモレキュラーを再びネット空間へ戻すことができます。こうした分散型・参加型のネット・アートは、当時としても非常に先鋭的な試みでした。

すでに三上さんは、伝統的な「作家が作品を完成させ、署名をし、静物として巡回展示する」という形式にとらわれていませんでした。むしろ、技術とともに可変的に変化し、多くの人の参加によって初めて成立する作品形式を積極的に探求し、その姿勢は当時のインタラクティブ・アートの反芸術性を先取りするものでした。

次に三上さんが取り組んだのが、《Molecular Informatics (モレキュラー インフォマティクス)》です。この作品は三上さんの生涯にとって非常に重要な作品といえます。最初に公開された後もバージョンアップを重ねながら発展し、2011年にはコンセプトを共有する《Eye-Tracking Informatics (アイ・トラッキング・インフォマティクス)》へと繋がっていきます。もし存命していれば、その後もさらにバージョンアップを重ねたであろう、ライフワーク的な作品といえます。

《Molecular Informatics》の最初の展示は1996年、代官山ヒルサイドテラスの地下空間で行われました。当時のインタラクティブCGは現在と比べると、格段に粗くカクカクした動きでしたが、この作品の核心は技術的洗練度ではなく「視ることを視る」というテーマそのものにありました。

体験者は、メガネ型の視線センサーを装着して作品を鑑賞します。このデバイスは、キヤノンが一眼レフカメラにおける視線入力型オートフォーカスを実現するために開発したもので、人がどこを見ているかをリアルタイムに検出できます。視線が検出されると、その見た位置に球体が出現します。つまり、観察者が視線を向けることで、対象がその場に「生まれる」仕組みになっています。

これは非常に重要な問題提起を含んでいます。たとえばマーケティングの分野では、ウェブページのどこが見られているかを視線計測で調査しますが、そこでは「物（対象）が先に存在し、人間がそれを見る」という順序が前提になっています。一般的な視線実験も同様で、与えられた画像や映像を人間がどのように見るかを測定します。

しかし《Molecular Informatics》は、この前提を転倒させました。視るべき対象が先にあるのではなく「視るという行為」が対象を生成する。見る行為と対象の成立がほぼ同時に起こり、関係性が形を生み出すという構造を作品として提示したのです。《Molecular Informatics》はインタラクションの概念に新たな地平を開き、観察する主体と生成される対象の関係を根本的に問い直した作品といえます。

《Molecular Informatics》を中心に執筆されたテキスト『Molecular Informatics Substance via Eye tracking』（p.50「展示台6 展示資料一覧」6-13）には、展示の体験者が生成した視線の軌跡が掲載されています。三上さんが非常に重視していたのは、システムそのものよりも、そこから始まる、生まれる造形でした。この作品は、最初は真っ暗で、何も対象がないわけですから、体験者がいないと成立しない作品です。そのためこの作品は、

「インタラクションとは何か」「インタラクティブ・アートとは何か」ということを考える上で、極めて本質的かつ象徴的な作品になっています。

また、《Molecular Informatics》で視覚と視線の問題に取り組んだ頃から、三上さんは「パーセプション（知覚）」をもう一つの主要テーマとして持ち続けていました。三上さん自身は、先ほどのテキストの中で「知覚の美術館」あるいは「知覚のお化け」のようなものをつくりたいと述べており、知覚それ自体を作品として可視化・可聴化し、拡張することを志向していたことが分かります。

その探究は翌年にも継続されます。1997年にはICCで、自身の体内音を無響室で極端に増幅し、サラウンド環境で鑑賞者に聴かせる《存在，皮膜，分断された身体》を発表しました。普段意識されることのない身体内部の音を巨大な音響空間として提示するこの作品は、視覚に続いて「聴覚のお化け」を作り出す試みであり、人間の知覚の境界と構造そのものを問うものでした。

このように三上さんは、視覚・聴覚といった知覚の根源的な働きを素材とし、それらがどのように対象を立ち上げ、世界を経験させるのかを作品として探究し続けていました。その姿勢は、インタラクティブ・アートの本質を先鋭的なかたちで提示するものであり、今日のメディア・アートの議論においても極めて重要な位置を占めています。

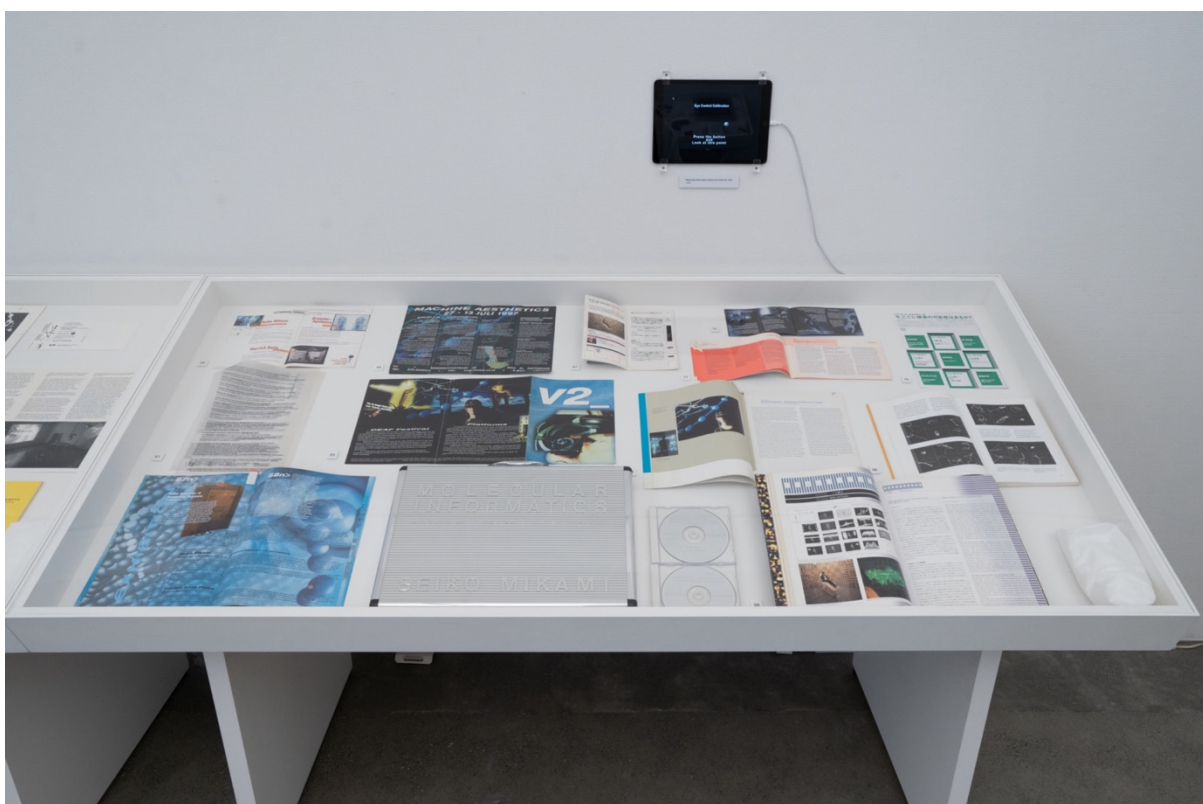


展示台5（左）、6（右）と壁面の展示の様子

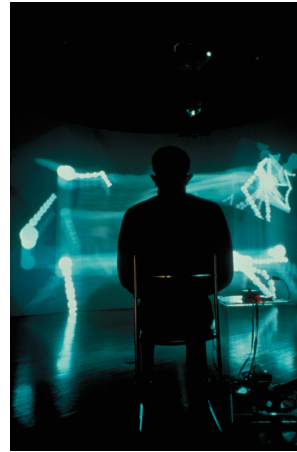
写真左奥に吊り下げられている大判の資料には、「Molecular Informatics ver 3.0 March 13th from 6:45pm to 6:48pm exhibition in FRANCE」と記載がある（p.61「壁面 展示資料一覧」壁面-3）。展示台6の上にあるタブレットには、《Molecular Informatics》の軌跡の記録映像を展示した。



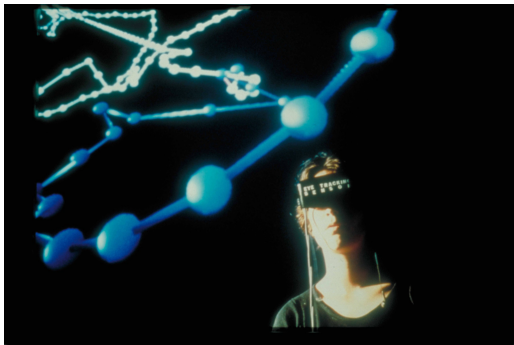
展示台5 展示した資料は、p.47-49「展示台5 展示資料一覧」を参照。



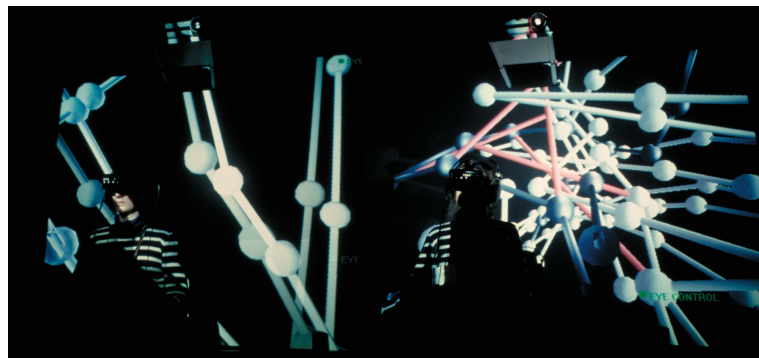
展示台6 展示した資料は、p.49-50「展示台6 展示資料一覧」を参照。



Seiko Mikami "Molecular Informatics - morphogenic substance via eye tracking" Version 1.0, Canon ARTLAB, Hillside Plaza, Tokyo, 1996. Photo: Mikio Kurokawa



Seiko Mikami "Molecular Informatics - morphogenic substance via eye tracking" Version 2.0, DEAF96, Rotterdam Holland, 1996. Photo: V2_Organisatie



Seiko Mikami "Molecular Informatics - morphogenic substance via eye tracking" Version 3.0, EXIT & VIA, France, 1998. Photo: Miwa Koizumi

2000年に三上さんが多摩美術大学の教員として着任してからは、建築家の市川創太さんとのコラボレーションが始まりました。二人は「重力覚」という概念に着目し、重力の知覚を「第六の知覚」と位置づけて、重力をテーマとした作品群《gravicells（グラヴィセルズ）— Gravity and Resistance》シリーズを制作します。

その後、三上さんは《gravicells》の流れに加えて、《欲望のコード》、そして《Molecular Informatics》を発展させた《Eye-Tracking Informatics》という新たなインタラクティブ・アート作品を制作しました。こうして資料を整理しながら振り返ると、これらの作品は三上さんの生涯における一つの到達点であり、エポックをなす重要なプロジェクトだったとあらためて感じます。もし存命であれば、2015年以降にどのような方向へ展開していったのか？ さまざまな可能性を秘めていたのではないかと思います。

1990年代はキャノン・アートラボが制作を支援しましたが、2000年代以降の三上さんの活動を最も手厚く支えたのは、山口情報芸術センター〔YCAM〕でした。YCAMには広いスタジオと、インターラボという専門的なテクニカルスタッフによるチームがあり、大規模なインタラクティブ・インスタレーションを制作するための環境が整っていました。

例えば《gravicells》では、大型のパネルが床一面に敷き詰められ、その総重量はおよそ1.5トンに及びます。観客がインスタレーション内部に入ると、その動きに応じて空間が等高線のように歪み、重力場が揺らぐかのような視覚効果が生まれます。この作品は海外でも数多く巡回し、この時期の三上さんは年に何度も海外で展示やレクチャーを行っていたように記憶しています。会場には、YCAMでの展示の際に配布された解説資料（p.52「展示台7 展示資料一覧」7-12、p.54「展示台8 展示資料一覧」8-8、8-9）、リンツのアルスエレクトロニカで優秀賞を受賞した際の賞状（p.53「展示台7 展示資料一覧」7-15）、さらに各地を巡回した際のカatalogや映像、さまざまなドローイングなど、多岐にわたる資料を展示しています。



展示台7（左）、8（中央）、9（右）と壁面の展示の様子

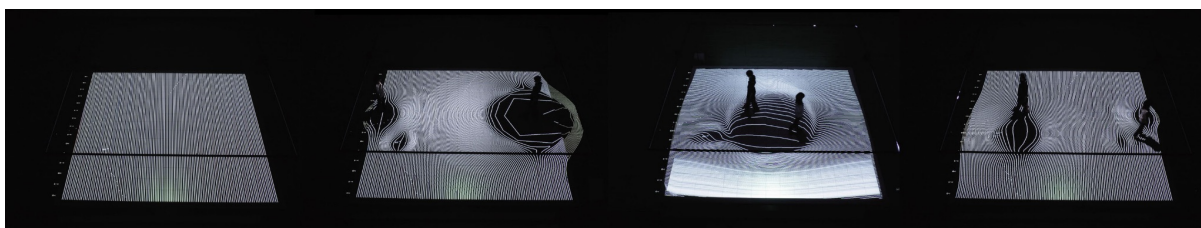
壁面に展示されているポスターは、左から、p.61-62「壁面 展示資料一覧」壁面-4、5、6、7、8。



展示台7 《gravicells》関連資料。展示した資料は、p.51-53「展示台7 展示資料一覧」を参照。

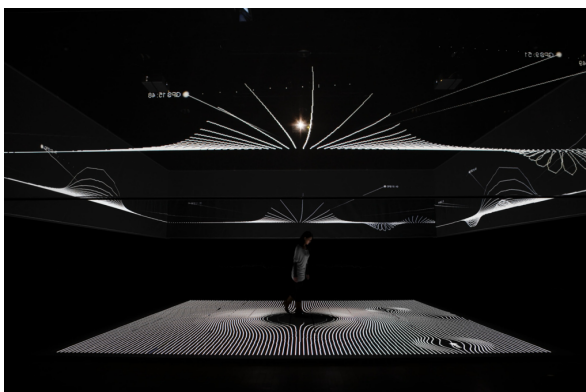
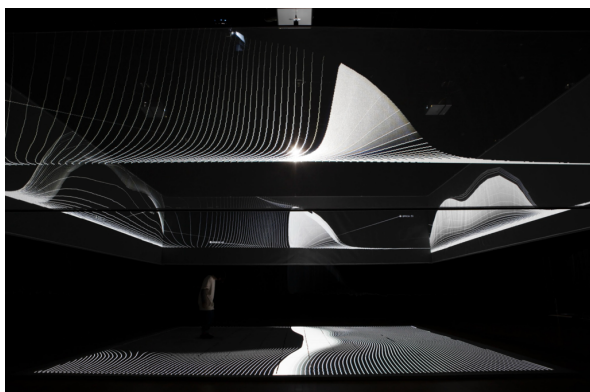


展示台8 《gravicells》関連資料。展示した資料は、p.53-54「展示台8 展示資料一覧」を参照。



Seiko Mikami & Sota Ichikawa “gravicells - LED version”, Yamaguchi Center for Art and Media [YCAM] 2004.

Photo: Kenichi Hagihara, Hiroki Obara



Seiko Mikami & Sota Ichikawa “gravicells - 4 screens version”, Yamaguchi Center for Art and Media [YCAM] 2010.

Photo: Ryuichi Maruo [YCAM]

また、会場には額装された資料がいくつかあります（p.53「展示台8 展示資料一覧」8-1、p.57「展示台9 展示資料一覧」9-21、9-22、p.58「展示台10 展示資料一覧」10-4）。これらは、三上さんの多摩美術大学の研究室にそのまま残されていたものです。《gravicells》や《欲望のコード》の展覧会リーフレットやフライヤーなどが額装されていて、しかも独特な組み合わせのフレームに収められていました。三上さんにとって大切な資料であったことがうかがえるため、今回それらはそのままのかたちで展示しています。

《欲望のコード》は、知覚の探求と、1980年代以来一貫して取り組んできた情報社会への問題意識が、再び結び直されたテーマを持つ作品です。2007年には、ヒューマンインターフェース学会で「知覚としての身体から情報としての個人へ」というタイトルのテキストを執筆していて（p.54「展示台8 展示資料一覧」8-5）、この作品にもその視点が強く反映されています。《欲望のコード》は2010年にYCAMで初めて発表され、続く2011年にはICCでも展示されました。

日本では2008年にiPhoneが登場しましたが、その頃、三上さんは「ある種の恐怖を感じている」とよく話していました。テクノロジーが身体を拡張する一方で、私たちの行動や欲望

が監視され、管理されていく時代が到来するのではないかという危機感を抱いていたのだと思います。視覚、聴覚、重力覚といった人間の身体と知覚をテーマにした作品を経て、この「監視資本主義」と呼ばれるような社会状況をインスタレーションとして表現しようとしたのが《欲望のコード》です。

会場には、《欲望のコード》制作時の手描きノートの断片や、制作および展示に関連する資料を展示しています。《欲望のコード》は大きく三つの要素から構成されていますが、その一つが「蠢く壁面」と名付けられたインスタレーションです。壁面には小さな突起物が多数配され、その先端にはLEDライトと小型カメラが取り付けられています。鑑賞者が近づくと、それらが一齐に鑑賞者の方向へと向きを変えます。

展示しているドローイングやスタディの中には、草原のようなイメージを基にしたもの(p.55「展示台9 展示資料一覧」9-8)も含まれていて、それが発展するかたちで、最終的に白い壁面全体にサーボモーターが組み込まれ、「チチチ……」と細かく震えながら動き続ける「蠢く壁面」として結実しました。

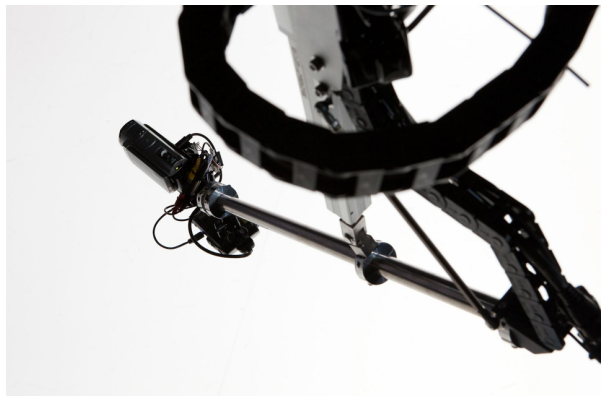
二つ目の要素は、「多視点を持った触覚的サーチアーム」と呼ばれる装置です。これは、鑑賞者を常に追いかけるように動き、見ることと見せることが一体化した構造を持っています。すなわち、先端にカメラとプロジェクターが組み込まれたアームが、鑑賞者の動きを追跡しながら像を投影します。当時、プロジェクターは大型のものが主流でしたが、この頃になって小型のレーザープロジェクターが登場したことが、この機構を実現する重要な契機となりました。サーチアームのモチーフは昆虫の脚です。天井から伸びるアームが空間に生え出しているように設置されており、そのデザインは虫の脚を連想させます。会場には、昆虫の脚に着想を得たスタディも併せて展示されています。

三つ目の要素が、「巡視する複眼スクリーン」です。昆虫の複眼を模したスクリーンには、「蠢く壁面」や「多視点を持った触覚的サーチアーム」によって撮影された鑑賞者の映像に加えて、インターネット上で収集された監視カメラ映像がモザイク状に表示されています。これは、三上さんが2007年のテキスト「知覚としての身体から情報としての個人へ」で示した問題意識、すなわち知覚の拡張がそのまま監視社会の構造と結びついてしまうという現代的な状況を象徴的に提示しているといえます。

資料をあらためて読み解く中で、草原のイメージや昆虫の脚、そして複眼といった自然界のモチーフが一貫して用いられていることが見えてきます。このような視点で作品を捉え直していくと、三上さんが追究しようとした知覚と情報社会の関係について、さらに多くの発見があるのではないかと感じます。



展示台9 《欲望のコード》関連資料。展示した資料は、p.55-57「展示台9 展示資料一覧」を参照。



Seiko Mikami "Desire of Codes", Yamaguchi Center for Art and Media [YCAM], 2010, Photo: Ryuichi Maruo [YCAM]

コンピューターの性能が約15年の間に飛躍的に向上したことにより、以前は「モレキュラー」のかたちで展開されていた作品が、《Eye-Tracking Informatics》として2011年に再構築されました。三上さんが当初からイメージしていた「視神経」により近い表現へとバージョンアップされ、YCAMやICCに加え、海外でも展示されています。展示台では、このバージョンアップの際に描かれたスケッチの複製も紹介しています（p.58「展示台10 展示資料一覧」10-5）。

こうして1985年頃からの活動をあらためて振り返ると、三上さんが扱ってきたモチーフには非常に強い一貫性があることが分かります。情報社会に対する批評的視点、情報と個人の関係、知覚と身体の内在性など、初期から晩年まで一貫した主題に取り組み続けた作家であったことが、資料を通して鮮明に伝わってきます。

これらの作品と資料を読み解くことは、インタラクティブ・アートとは何だったのか、そして現代社会の問題をどのように捉えるべきかという問いに、新たな洞察を与えてくれるように思います。



展示台10、11、12と壁面の様子。壁面のポスターは、奥から、p.62「壁面 展示資料一覧」壁面-9、壁面-10。

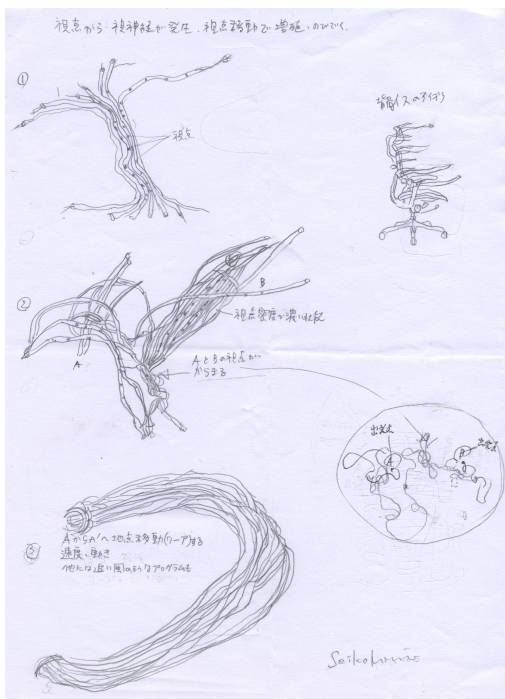


展示台10 《欲望のコード》《Eye-Tracking Informatics》関連資料
 展示した資料は、p.58-59「展示台10 展示資料一覧」を参照。



展示台11 《Eye-Tracking Informatics》関連資料

展示した資料は、p.59-60「展示台11 展示資料一覧」を参照。



《Eye-Tracking Informatics》のためのドローイング

三上自身が作成したプロフィールサイトに掲載されている画像。p.58「展示台10 展示資料一覧」10-5は、この画像を印刷して展示した。

最後の展示台では、多摩美術大学での教育に関連する資料をまとめています。三上さんは自身が作品を制作するだけでなく、メディア・アート教育をいかに実践するかを強く意識していました。2000年に着任し、共にゼミ（現メディアラボ）を運営していた頃から、常に「インタラクティブ・アート、つまりインタラク션을美術大学でどのように教えるべきか」という問いを掲げ続け、それがゼミの大きなテーマとなっていました。確立した答えがあるわけではなく、試行錯誤を重ねる実践そのものが、2000年代以降の教育活動につながっていたのだと思います。

2003年に《gravicells》の最初のプロトタイプを制作する際、学生たちとともにICCでワークショップを開催しています（p.60「展示台12 展示資料一覧」12-3、12-4）。また、学生による学外展へコメントを寄せたフライヤー（p.60「展示台12 展示資料一覧」12-6）も展示しています。

さらに、多摩美術大学の紀要に「知覚によるインターフェイス考察」というテキストを執筆したり（p.60「展示台12 展示資料一覧」12-5）、高校生向けの「メディア芸術テキストブック」を制作した際には、自身の作品を用いてメディア・アートとは何かを解説するテキストを担当するなど（p.61「展示台12 展示資料一覧」12-7）、教育者としての活動にも精力的に取り組んでいました。このような姿勢からも、三上さんがメディア・アートの未来を担う人材育成に強い使命感を持っていたことが伺えます。



展示台12 「多摩美術大学での教育・活動」関連資料

展示した資料は、p.60-61「展示台12 展示資料一覧」を参照。

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」 出展リスト

本展で展示した資料の出展リスト (https://aac.tamabi.ac.jp/resources/250626_出品リスト.pdf) は、多摩美術大学 研究ポータルで運用されているデータベース (TAUArtDB) から生成された。展示会場ではA3サイズの手紙に印刷し、二つ折りにして配布した。

※掲載内容は資料展開催時点のものであり、今後の整理、調査によって修正が行われる場合があります。また、活動年表自体も随時アップデートしていくことを予定しており、お気づきの点については、多摩美術大学アートアーカイヴセンターまでご連絡ください。

※年月日については、「開催」「出版」「制作」など、資料によって異なる表示になっています。また、出展資料の一部は、資料自体に日付の記載がない場合があります、今回の出展リスト上では展覧会の開催年などの情報と照らし合わせて推測年で入力された項目があります。資料に日付が記載されている場合と推測年である場合が表示上で識別ができるようにすることも含め、表記や分類等については今後のアップデートの際に検討予定です。なお、本資料の文中や写真のキャプションとして記載している資料のタイトル等は、作成時に加筆、修正を行っています。

最新の情報は、「三上晴子活動年表」 (https://aac.tamabi.ac.jp/seiko_mikami_timelines.html) のサイトおよび各資料のページをご覧ください。

多摩美術大学 アートアーカイブセンター 所蔵資料展7

三上晴子没後10周年 三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展 出展リスト

Seiko Mikami Archive
Chronology of Activities Exhibition
Exhibition List

凡例

No.	資料名	分類	開始日～終了日、年
	サムネイル		

- この出展リストは、多摩美術大学 研究がータルで運用されているデータベース (TAMUのDB) から生成されたものです。
- 各資料右下のQRコードをスキャンすると「三上晴子活動年表」の当該資料の詳細ページにアクセスできます。
- 年表データは随時アップデートしていく予定です。何かお気づきの点がございましたら、アートアーカイブセンターまでご連絡ください。

1	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 告知ハガキ	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
2	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
3	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
4	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
5	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
6	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
7	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	
8	三上晴子展 減ビノ新造型 鉄ノ立体3 部作 写真アルバム (表紙裏)	開催 1985.05.19 - 1985.06.14	

展示会場で配布した「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」出展リストの表紙

今後の展望

- 三上晴子アーカイヴの資料整理と内容の把握、三上晴子の活動に関する情報収集を今後も継続的に行っていく。
- 資料や収集した情報をもとに、活動年表も随時アップデートをしていく。情報集約とデータベースへの入力を進めていくと同時に、入力内容の見直しや項目の検討も進める予定である。
- これらの作業を通して、三上晴子アーカイヴの「ガイドブック」となるような資料の作成にもつなげていきたい。

謝辞

「三上晴子 没後10周年 三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」の開催および記録の発行にあたり、多大なるご協力とご助言をいただいた関係各所の皆さま、ならびに資料のご提供や調査にご尽力くださった皆さまに深く感謝申し上げます。

「三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」展示資料一覧

本展で展示台・壁面に展示した資料をそれぞれまとめた。

※「『三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展』出展リスト」(p.36)でも述べたとおり、今後の調査や検討に伴い、内容は随時更新されるため、最新の情報は「三上晴子活動年表」(https://aac.tamabi.ac.jp/seiko_mikami_timelines.html)のサイトおよび各資料のページをご覧ください。

展示台1 展示資料一覧

1-1. 三上晴子個展 滅ビノ新造型 鉄ノ立体3部作 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B9C0CA919C46460F9DC3241DB6CCD3E0%22&begin=0>

1-2. 三上晴子個展 滅ビノ新造型 鉄ノ立体3部作 写真アルバム (表紙黒)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2233AA2553A65B4D3F8E26B9E8A103E530%22&begin=0>

1-3. 三上晴子個展 滅ビノ新造型 鉄ノ立体3部作 写真アルバム (表紙赤)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2237041DA42ECA4FCAA4CD9E59FE3A6D22%22&begin=0>

1-4. 三上晴子裏個展 BAD ART FOR BAD PEOPLE フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22995D8FAE74E440BE9B3A2AC95C5A77C8%22&begin=0>

1-5. ドローイング No1 植物類 イス類 ライト付きテーブル類

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22BB03C647E17C4003BFF4865FD7BA3C52%22&begin=0>

1-6. ドローイング No2 ライト 海底植物

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22125FA269B8C540E1A1278823FB40F497%22&begin=0>

1-7. ドローイング 有機室 予定

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22BFD853D5824543BC8881371BFA1D769A%22&begin=0>

1-8. 有機室 フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22BD87BFF096224852A61F14ACE39ACB64%22&begin=0>

1-9. 石井賞創作タイプフェイスコンテスト10回記念 DANCIN' TYPOGRAPHY

リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%220DD84C118B0B4047B51EAAC5D484F3B9%22&begin=0>

1-10. ArT RANDOM Jae-Eun Choi Seiko Mikami

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AC7224F4C50F48E490FB64464F7D2360%22&begin=0>

展示台2 展示資料一覧

2-1. SEIKO MIKAMI ポートフォリオ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%223589430557DE4C13A2261464A6FBA7CD%22&begin=0>

2-2. TECHNO-METAPHYSIS カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E3919F4BEF264622BE2CA5A9BD996792%22&begin=0>

2-3. ALL HYBRID 1984-1990

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F838A76A825E4044A9724FC59B165E80%22&begin=0>

2-4. INFORMATION WEAPON in Super Clean Room Opening Reception Invitation

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2247349F67C19B4685848B0BB2FE3F921D%22&begin=0>

2-5. 三上晴子個展 INFORMATION WEAPON in Super Clean Room オープニングレセプション 出欠ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%227E22EEAB8C534C15BD57E2EC1D4F185D%22&begin=0>

2-6. 三上晴子個展 INFORMATION WEAPON in Super Clean Room リーフレット (折る前)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%229CF82430937047CAABC42DA526265533%22&begin=0>

2-7. Information Weapon 1: Super Clean Room リーフレット (封筒と中身)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22029C7929FB864A5C8BAD9668D56B8652%22&begin=0>

2-8. New Weapon plan ドローイング

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E8BC20DF3A0D447580B287DFD410D346%22&begin=0>

2-9. INFORMATION WEAPON 2 MEDIA BOMBS 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2272C35E0D64E94BE893481C9536000CED%22&begin=0>

2-10. INFORMATION WEAPON 3 THE PULSE BEATS INVITATION (ラミネート)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E1B63136D23B445CB1FD9277C2533EE4%22&begin=0>

2-11. INFORMATION WEAPON 3 THE PULSE BEATS ステッカー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22CB4D4741AEF949F192821ACF7AAF94B5%22&begin=0>

2-12. INFORMATION WEAPON 3 THE PULSE BEATS!! リーフレット（封筒と中身）

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%227E52C9B91906442E945158D8385A2B9E%22&begin=0>

2-13. INFORMATION WEAPON 3 THE PULSE BEATS!! ステッカー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225C5A91BF556742CDAC5CF82C4EFBD9F6%22&begin=0>

2-14. Borderless Under the Skin 写真

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225E47784D98E944838D9C4963D3AD90A1%22&begin=0>

2-15. 三上晴子「イエロウ」レントゲン藝術研究所カタログ No.2

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22ADEA7869320A41559A5C8B3EA6A3DE2E%22&begin=0>

2-16. アート・ラビリンスー90年代美術への視座ー カatalogの一部（Information weapon Media Boms 1990）

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228CFFD704C1BB4C5FAEB910194B23643A%22&begin=0>

展示台3 展示資料一覧

3-1. Tweeking the Human 展覧会告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2283DA51479E9844E1AA3ADC1640085542%22&begin=0>

3-2. ART IN THE ANCHORAGE リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22246840457C3A461F9E11326E48EF7CA6%22&begin=0>

3-3. 1991 and 1992 CREATIVE TIME カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E6BDA1280F424175A848EFC41093C095%22&begin=0>

3-4. Seiko Mikami World Membrane: Disposal Containers リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%223708B09B64744F979F78BB9A5C924D8E%22&begin=0>

3-5. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード (IVY MIKE)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FD5F5BD905264BCDA700F92BA40385ED%22&begin=0>

3-6. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード
(SET UP FOR CHEMICAL WEAPON)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%222BE823E62F4140D9A4D1C3C6C08D7495%22&begin=0>

3-7. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード (Are you ready?)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B83BB08798654057B25971765F99A3DB%22&begin=0>

3-8. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード
(GENE RECOMBINATION)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2265EFF94C2502498F887E27374EBE933C%22&begin=0>

3-9. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード

(TEST ANIMAL WASTE)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22BA091B5ACAA3455291DDF2BE383E9F55%22&begin=0>

3-10. World Membrane Disposal Containers 1992 ポストカード (UNKNOWN RISK)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%227241FE9348F140FCA6707259A7E5AAC6%22&begin=0>

3-11. Breaching Containment 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22975A01D976FA4719831F67AC0473471E%22&begin=0>

3-12. 30 リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22CCCE4906336147A381635AFD92BF8705%22&begin=0>

3-13. Out of Town: The Williamsburg Paradigm カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228800EF448FC04646A91575CC67F878E9%22&begin=0>

3-14. CURATOR'S EYE '93 vol.3 三上晴子展一被膜世界：廃棄物処理容器一 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%224A1A1490C1D7435CAC87AFD7550BD90B%22&begin=0>

3-15. CURATOR'S EYE '93 vol.3 三上晴子展一被膜世界：廃棄物処理容器一 カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226E780187BC3B4A519B25ECE8E40F083E%22&begin=0>

3-16. NATURALUNNATURAL 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225826B122D3E04DA39CBD6703AB1F0F8E%22&begin=0>

3-17. イコノクラスム フライヤーと封筒

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2248F413142F824A2590127780CF29E742%22&begin=0>

展示台4 展示資料一覧

4-1. ZOO EXTRACTS リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FBB4E6B557EE4119B60231C025D7C45D%22&begin=0>

4-2. twisted state リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%223BB9484E0CB14D518A7C17D2D4529FCA%22&begin=0>

4-3. World, Membrane, and the Disappearing Body Border Editions. 出版告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%221E8F673226F34D80BC6EE8FFE500BCBA%22&begin=0>

4-4. Seiko Mikami World, Membrane, and the Vanishing Flesh Border Editions の複写

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2258D2093E22E44664A3ADA74F04D80520%22&begin=0>

4-5. アート・ラビリンスー90年代美術への視座ー フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22D259CFD5FE984828808759EAF163094F%22&begin=0>

4-6. アート・ラビリンスー90年代美術への視座ー カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22054DA48560E1481C878B03647D20140E%22&begin=0>

4-7. ヒロシマ以後 現代美術からのメッセージ フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DF70BAEC6E0646408B9498D77DF26ABB%22&begin=0>

4-8. ヒロシマ以後 現代美術からのメッセージ I カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%221BF9B468DC5547919EC018E64A72E687%22&begin=0>

4-9. NTT インターコミュニケーション'95 on the Web ネットワークの中のミュージアム—リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2239305BCF3F20466AB27EED84B73C8A21%22&begin=0>

4-10. NTT インターコミュニケーション'95 on the Web ネットワークの中のミュージアム—カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%222171CA0ECC354CD0AEF7734025F93EA1%22&begin=0>

展示台5 展示資料一覧

5-1. ARTLAB 5 Molecular Clinic 1.0 on the internet リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22BF0C8723B08D4D7AB8C39FD634FF512F%22&begin=0>

5-2. ARTLAB 5 Molecular Clinic 1.0 on the Internet Merry Christmas and Happy New Yearハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2246C09FA04C50464F9146E7F7B4AF50C2%22&begin=0>

5-3. アートラボ第6回企画展 Molecular Informatics [モレキュラー インフォマティクス]—
視線のモルフォロジー 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F1F31A07D1AE4A0198A9A57E2AE95378%22&begin=0>

5-4. アートラボ第6回企画展 Molecular Informatics [モレキュラー インフォマティクス]—
視線のモルフォロジー フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FF9B6D7213E44189878B7EE7EE45DC77%22&begin=0>

5-5. アートラボ第6回企画展 Molecular Informatics [モレキュラー インフォマティクス]—
視線のモルフォロジー カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22EFA544427DC2466AB31E2B3552295FC8%22&begin=0>

5-6. 生物/いのち/ART チケット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B0C4111482354A6FA56DD47067E02F23%22&begin=0>

5-7. 生物/いのち/ART カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%227C319F5FD5DF4F45A2FE119E02ECB547%22&begin=0>

5-8. Espai 13 Molecular Informatics morphogenic substance via eye tracking

告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FB3A246280894A56B8B11B45C48E2D95%22&begin=0>

5-9. Espai 13 Molecular Informatics morphogenic substance via eye tracking
リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B514040B8EF942FE814E1B6ED7AACADF%22&begin=0>

5-10.Partner of Forerunners–Canon’s Cultural Support Activities キヤノンの文化支援プロジェクト [1991–2000]

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2211A6063E19474142856FED3E804277CE%22&begin=0>

展示台6 展示資料一覧

6-1. DEAF 96 プレスリリース

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22410EDEF36DE04B9ABBD9957CADD79B80%22&begin=0>

6-2. Deaf 96 カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F1599C850E5249039B24B356364360A4%22&begin=0>

6-3. V2_ リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%229FA5D2B135B14AAD84FCA7F5FBF5B5CE%22&begin=0>

6-4. ICC コンセプトブック

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DDE94FCC98964A83A8EA8D1F07A3ACDE%22&begin=0>

6-5. ICC常設展ガイド

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22EAD47CC97E134349BBAED9997B171BAD%22&begin=0>

6-6. Machine Aesthetics リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2215C32905989D4F9F8C5503815834F2EC%22&begin=0>

6-7. FESTIVAL INTERNATIONAL EXIT パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DFE45FF7F1F34BE897763C1F53A343A0%22&begin=0>

6-8. DeAF98 パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F22092DC2136492D9666A751360A006B%22&begin=0>

6-9. トランス・アーキテクチャー2 今、ここに建築の可能性はあるか フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AC4E10BC1FB74F0B9230A304AFD72243%22&begin=0>

6-10. transmediale.02 パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%223A6AC3FF839F4DDFBD7787648B212BEB%22&begin=0>

6-11. transmediale.02 カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%224FBE60F6BADD46E599E2D00E3E3CE7A2%22&begin=0>

6-12. Molecular Informatics アタッシュケース

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FD1228B509A549B0B83972A31506ECC1%22&begin=0>

6-13. Molecular Informatics–Morphogenic Substance via Eye Tracking

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AA1AEDFD4462439BB47E542298C877DF%22&begin=0>

展示台7 展示資料一覧

7-1. World, membrane and disappearing body』 2002年改訂版 『重力と抵抗：無響室バージョン』

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%224637AEC7ADEA4A6696B8A4AD5A2711E3%22&begin=0>

7-2. gravicellsのためのドローイング

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2200D0D50221914434BD337B06DEB541EE%22&begin=0>

7-3. 「重力と抵抗」 (写真紙)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%223D15BD5740A04A00AD2E4C3357944DDC%22&begin=0>

7-4. Installation design (写真紙)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FEED4BCBCC0F47389032D3FD698BD025%22&begin=0>

7-5. Past and Future plan for “Gravity and Resistance” (写真紙)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22C5F8725F2970403F8A3B1FB5613FA9A9%22&begin=0>

7-6. Representation about the gravity used as a background. (写真紙)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2211547F31060A4C98806ACE31EB157A44%22&begin=0>

7-7. Specific of three sensors of this work. (写真紙)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B3382BFE763E4925AF270880BCF49D33%22&begin=0>

7-8. Deaf 04 PROGRAM GUIDE

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22CA0F9011AC2843909EF0D5195C4ACA11%22&begin=0>

7-9. 三上晴子＋市川創太新作インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 告知ハガキ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%220C73B13D04F64D1FA4C456627512F23D%22&begin=0>

7-10. 三上晴子＋市川創太新作インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 告知ハガキ 英語版

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2273C6BD4156C541CE9A438FA1C8AE49CC%22&begin=0>

7-11. 三上晴子＋市川創太新作インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22EC520EB4484B407CBA2F9996E3E63836%22&begin=0>

7-12. 三上晴子＋市川創太新作インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 子供向け リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%224374FB1602C145E0AAC8C36ED1A796A2%22&begin=0>

7-13. transmediale.05 BASICS パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E2105A0E23A845519E5351BD58E72F83%22&begin=0>

7-14. ARS ELECTRONICA 2005 HYBRID パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22CB799F71BE814E01BB45ECA27A77B342%22&begin=0>

7-15. PRIXARS 2005 HONORARY MENTION

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225332BEF29C8A4E72A9B231952DBB4B0C%22&begin=0>

7-16. アート&テクノロジーの過去と未来 フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%221E1E691B9F6D487DBAE57CA4C304395B%22&begin=0>

7-17. Content パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%220244657A4FF84358A3817AFD2BA3429E%22&begin=0>

展示台8 展示資料一覧

8-1. 研究室に飾られていた、三上自身によって額装された gravicells—重力と抵抗 (2004) のパンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22D0EAB34BB47340D580E2864AF93FED9B%22&begin=0>

8-2. SHARE Festival 2005 パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22D70DF48F0B9045ABA86984866D3B10FA%22&begin=0>

8-3. Mois Multi 2007 パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22691587FFFE694C869929981B5A8F3C90%22&begin=0>

8-4. EL MEDIO ES LA COMUNICACIÓN パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22A40DDB1C4C6548EEA9469DBD2EE3D428%22&begin=0>

8-5. ヒューマンインターフェース学会誌 メディアアート特集 三上 晴子「知覚としての身体から情報としての個人へ」の複写

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DCB51EC1BE334026B407B91BA0044FAE%22&begin=0>

8-6. VELOCITY リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2264B154443A91414DA9CAFF7E77577733%22&begin=0>

8-7. Open Space 2008 フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22749EB96624E94B8F9793C3DE7DDF5BBD%22&begin=0>

8-8. 三上晴子＋市川創太インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22A7DF6DD5E2BD40959DB5CB2B018A98EB%22&begin=0>

8-9. 三上晴子＋市川創太インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 リーフレット
英語版

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22592DD9A8645D452E9DC20CAD5E0C6BFC%22&begin=0>

8-10. Translife: International Triennial of New Media Art カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226AD77957135141179279F122B392EAA8%22&begin=0>

8-11. Project Daejon: Energy カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AA676728A8AD49B6B600E02A8F18B9A0%22&begin=0>

展示台9 展示資料一覧

9-1. Desire of Codes 資料 (1枚目 Desire of Codes Plan C)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2211ED18C29D184A328BBE0D26492C6777%22&begin=0>

9-2. 欲望のコードのためのドローイング 11月12日

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22D15C5FB7486A4030848C0939788A1080%22&begin=0>

9-3. リングノート (表紙黒)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22742582CAD21B43C5B34C44C71D3999F9%22&begin=0>

9-4. ノート (表紙紺)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22C9D583DBC40449F1859F4A392DE2BBBE%22&begin=0>

9-5. 欲望のコード スタジオA 手前側 複眼スクリーン ラフスケッチ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228C95C50EB5AE4389B2B0BCE5EB8EBE04%22&begin=0>

9-6. 欲望のコード Drawing for the middle space of studio A: Six arms

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22786709C0C8C540D1ABD2EE1EFB9D0DF4%22&begin=0>

9-7. 欲望のコード Drawing for the middle space of studio A: Six arms Studio A Center

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2286683E2084894D75824E7CC5C7729CDE%22&begin=0>

9-8. 欲望のコードのためのドローイング ホワイエ作品プラン&スケジュール

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228F5F673020674B8D917D429633722D09%22&begin=0>

9-9. seiko mikami plan for YCAM Nov 2009

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2227292C1F0FE04D04BC5FF5C6A8CB4884%22&begin=0>

9-10. 欲望のコードのためのドローイング 床にセンサー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E39261198A72468FB11C8DB56B06CE88%22&begin=0>

9-11. 欲望のコードのためのドローイング 壁面の図

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FDDB9696916045A9851D4A56C722E208%22&begin=0>

9-12. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B7C9B0E7A7484B87B3FBED9811056336%22&begin=0>

9-13. 三上晴子 欲望のコード制作現場でのスナップ写真

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%224A91BDDFA1414B0EB6E3A485682934D3%22&begin=0>

9-14. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%221C54329809534F508A63C26BFE8FD0AB%22&begin=0>

9-15. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポストカード 1

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22685E9E4AAB7F4D2CBCEEC1622F950105%22&begin=0>

9-16. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポストカード 2

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DFE91A1A29A540F89E79566416D83270%22&begin=0>

9-17. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポストカード 3

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225243A2B5760E4FC1848A8018D9857B6E%22&begin=0>

9-18. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポストカード 4

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%227ADF34F8EF054070866A1AA2F12E788D%22&begin=0>

9-19. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード の際に作成されたgravicells—重力と抵抗 (2010) のポストカード 1

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AFA2437B42194F0BA1B4694F5121B79A%22&begin=0>

9-20. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード の際に作成されたgravicells—重力と抵抗 (2010) のポストカード 2

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226AFB41A50F81468AB1F44C20482003F7%22&begin=0>

9-21. 研究室に飾られていた、三上自身によって額装された 三上晴子新作インスタレーション展 欲望のコード のフライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2264103B6BEC0A4D17BA1596E4FCF9E5A1%22&begin=0>

9-22. 研究室に飾られていた、三上自身によって額装された 三上晴子新作インスタレーション展 欲望のコード のパンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22653DF439458449118079691F992F23F5%22&begin=0>

展示台10 展示資料一覧

10-1. Desire of Codes 起動手順書

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F2404B8CA3694DA4A120C764E372095B%22&begin=0>

10-2. TRUST カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22F9865CEC674440FEA230E1E935E4FCE0%22&begin=0>

10-3. SPACE INVENTIONS カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226FA9898754DA4DE09017AE90BEF7E636%22&begin=0>

10-4. 研究室に飾られていた、三上自身によって額装された 欲望のコード のフライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22C1CC87EA9B254D058E51814F4EBA363F%22&begin=0>

10-5. 《Eye-Tracking Informatics》のためのドローイング

(三上自身が作成したプロフィールサイトに掲載されている画像を印刷)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2274E2A964F2C84391A549F8600816E076%22&begin=0>

10-6. Ars Electronica 2012 カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FC95DC0600E2473280A070FFF67F1D39%22&begin=0>

10-7. 平成24年度文化庁メディア芸術祭受賞作品集

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22137903BF095C4A8ABE8B960B761265CD%22&begin=0>

10-8. Wonder of Fantasy: 2014 International Techno Art Exhibition カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228882425B009F49B8B1621D2B42639629%22&begin=0>

展示台11 展示資料一覧

11-1. LabACT 視線を通じて世界と繋がる。ー視線入力技術 vol.2 フライヤー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%222F653DA0D6214315B2EA8FECA9F5AB65%22&begin=0>

11-2. Yamaguchi Center for Arts and Media Studio B plan

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2247E1B37DC9774735B5ACD6B927A7C1B1%22&begin=0>

11-3. Eye Tracking Informatics in YCAM System Chart (2 Screens)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2261EF0AE8F1BD4205A89FE0FF3FE38BD5%22&begin=0>

11-4. any 79 特集 LabACT vol.2 「Eye-Tracking Informatics視線のモルフォロジー」

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2243B2CD57D4724691A584E02EF5FC4FC5%22&begin=0>

11-5. Mediacity Seoul 2012 カタログ

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22740F8BAF123C410BA53247A07996C16D%22&begin=0>

11-6. SOFT CONTROL パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22C8688068183D4824A4045F4958813BC2%22&begin=0>

11-7. folio

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22766275E593CF437EBA7E95635B3A5F29%22&begin=0>

展示台12 展示資料一覧

12-1. 多摩美術大学情報デザイン学科 「数と知覚のインターフェース」 研究室修了学外展
Virtual Gravity リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B37FD076BB3F41F2A3A78B0B07E3D9AF%22&begin=0>

12-2. コミュニケーションの現在・2003 ポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2223E14578F298418A943A6B14DDDD7742%22&begin=0>

12-3. media art workshop exhibition 身体一空間：粒子と流動 リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22FF5B588F72294951BDDE93EBA3CA6FCF%22&begin=0>

12-4. メディア芸術研究室 空間一身体：プロセスとループ パンフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%228E954C75C99A4B37B3B391A54C9A59B5%22&begin=0>

12-5. 多摩美術大学研究紀要 三上晴子「知覚によるインターフェイス考察」

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AED4AF44F35F4D1488E0C3B9F14FE04C%22&begin=0>

12-6. In our time. - 与えられた場所からの脱出- リーフレット

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225B7E97F728FA4093B97808C8E2706F81%22&begin=0>

12-7. メディア芸術テキストブック ver.201X

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22E65DF135A92545A68C404C548E291403%22&begin=0>

壁面 展示資料一覧

壁面-1. 石井賞創作タイプフェイスコンテストDANCIN' TYPOGRAPHYポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%221F3E99A6368A44DDB5CD68AAE0244A78%22&begin=0>

壁面-2. トーヨコグループ 1991 カレンダー

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22C3B6F504DA6D4E48BE655C8BFF1F01F2%22&begin=0>

壁面-3. Molecular Informatics ver 3.0 March 13th from 6:45pm to 6:48pm exhibition in FRANCE

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226893089C5034446E92FDB6FFC8394601%22&begin=0>

壁面-4. 三上晴子+市川創太新作インスタレーション展 gravicells—重力と抵抗 ポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%226045BAB560C249F486E09DDD064758F3%22&begin=0>

壁面-5. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポスター (鏡面 赤)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22AA0426F7593A488AAA053D9516C6DF38%22&begin=0>

壁面-6. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポスター (鏡面 ゴールド A 濃い)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22DDDC6DC5E20241A3B0EDFDFDA55E2BD1%22&begin=0>

壁面-7. 三上晴子 新作インスタレーション展 欲望のコード ポスター (鏡面 シルバー)

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%225D3F2E95ED174DEA835A647820918D0A%22&begin=0>

壁面-8. 三上晴子 欲望のコード ニス有り ポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22A56EF5E83127418CAD5BAD772DE72E43%22&begin=0>

壁面-9. TRUST ポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%22B1555BD93A23466782504704E8D075B6%22&begin=0>

壁面-10. SPACE INVENTIONS ポスター

<https://aac.tamabi.ac.jp/archive/archives/mikamiseiko.html#mode=inspect&query=dbid%3A%2246A014ECE97D4D4E8754CE38A1C2C1D9%22&begin=0>

クレジット

- 「多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7 三上晴子 没後10周年
三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展」
主 催：多摩美術大学アートアーカイヴセンター
監 修：三上晴子アーカイヴ研究（久保田晃弘・石山星亜良・堀口淳史）
- 「多摩美術大学アートアーカイヴセンター所蔵資料展7 三上晴子 没後10周年
三上晴子アーカイヴ 活動年表資料展の記録 ver.1」
編 集：三上晴子アーカイヴ研究（石山星亜良・久保田晃弘）